

令和2年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	学生主体の学修共同グループ活動のさらなる飛躍	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	理学部	
※連携する他学部・機関がある場合は記入		
実施責任者(所属)	川村嘉春 (理学部)	
取組の目標	ICT を併用して、学生が学生を教えることにより成長する仕組みを促すための学生主体の学修共同グループ活動(学生学修ルームの提供、サイエンスラウンジの運用、自主ゼミの奨励・支援)のさらなる飛躍を目指す。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生同士の学修上の交流を促す場として、「学生学修ルーム」として理学部 A 棟 6 階のセミナー室を含む複数の部屋およびオンラインによる学習指導のための zoom スタジオ(理学部交流サロン)を提供した。 2. 上級生(サイエンスラウンジの学習指導相談員)が下級生の学習指導・相談・質問に応じる場として、「サイエンスラウンジ」を前期はオンラインのみで、後期はオンラインと対面の併用で運用した。 	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	b. おおよそ達成できた。	(評価理由) サイエンスラウンジを通じて、学生の学習に関する意欲・理解度の向上、学習指導相談員の教育能力の向上が図られた。ちなみにサイエンスラウンジの参加者(学習相談員を除く)は延べ 147 名にのぼり、活動の活性化がなされた。ただし、コロナ禍により自主ゼミが行われなかった。
		(今後の展望) サイエンスラウンジや自主ゼミは継続してこそ、その真価が発揮されるものなので、次年度以降も授業との連携を取りながら進めて行きたい。